

出資法人の経営改善計画及び点検評価システム

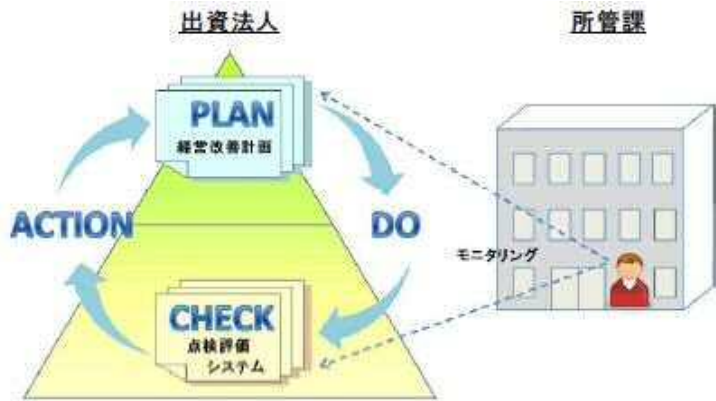
○計画策定手続き

各主要出資法人は、事業別の成果指標等を盛り込んだ複数年（3～4年）の経営改善計画を、各所管と協議の上、策定。

○点検評価

各主要出資法人は、毎年度、経営改善計画において設定した成果指標の目標達成度等を客観的な基準により評価し、改善等に向けた今後の取組の方向性を示す。

また、その結果を所管部局に報告し、本市と法人が連携して、事業の有効性及び効率性の向上に向けた取組の推進を図る。



○評価項目

・事業ごとに、アウトプット（事業実施の成果）、中間アウトカム（事業実施の効果）最終アウトカム（最終的に求める効果）の評価項目、があり、1法人平均で12～13項目に及ぶ。この他、「財務の改善」等の評価項目もあり。

○経営改善計画（H26～H28）及びH28点検評価結果の具体例

- ・川崎市文化財団
（公益財団法人）……………P 1
- ・川崎市土地開発公社
（特別法に基づいて設立した法人）……………P15
- ・みぞのくち新都市
（株式会社）……………P25

経営改善計画

法人名	公益財団法人川崎市文化財団	所管部署	市民文化局市民文化振興室
-----	---------------	------	--------------

【1: 経営の基本的考え方】

川崎市が期待する役割と経営改革	<p>①期待する役割 川崎市文化財団は、市民の文化活動の振興を図り、市民生活の向上と川崎市における新しい市民文化の創造に寄与することを目的とし、目的達成のための諸事業を行っている。同財団に対して、公益性の高い事業を実施し、もって本市の文化施策推進の一翼を担うことを期待している。また、ミュージア川崎シンフォニーホール、川崎市アートセンター、東海道かわさき宿交流館の指定管理者として、ホールや施設の魅力的な運営を行い、市の内外に音楽・映像・演劇等、良質で川崎らしい文化を発信するとともに、さまざまな分野の文化芸術の振興を図り、文化芸術を活かしたまちづくりへの貢献を期待している。</p> <p>②経営改革項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝統芸能等の鑑賞事業及び普及事業や、地域文化を支える人材育成事業など、幅広い文化芸術振興事業の実施と文化施設の効果的な運営 ・利用者ニーズに応じた利用調整等、施設における利用率の維持向上と、魅力ある公演企画による入場者増 ・市民ニーズと市民文化の創造を促進するため、各種事業をマッチングし、事業の有効性を高めていくための手法の確立 ・市の施策に沿った事業を効果的に実施していくための事業運営や企画立案等に係るノウハウの蓄積及び継承
法人のミッション	<p>(1)多様な文化芸術事業の実施(市民の文化芸術活動の振興、川崎市における文化芸術の創造を促進、多様なジャンルの文化芸術事業)</p> <p>(2)文化芸術施設の管理運営(市民の自発的かつ創造的な文化芸術活動の場を提供、文化芸術の創造と発信、文化芸術活動の支援と協働を推進)</p> <p>(3)効率的な事業運営(財団全体の組織力を結集、経営感覚に富んだ効率的な事業運営)</p>
現状及び課題の分析	<p>文化芸術を活かしたまちづくりの推進における中核的な組織として、市民の文化芸術活動への意欲を尊重し自主的な活動を支援するための事業を総合的に展開している。採算ペースの確保が難しい事業分野であるが、利用者増による収入の増加を図る必要がある。また、地域における文化芸術活動の活性化がもたらす多様な分野の地域課題解決に対する効果について、市民の理解が得られるよう市民の文化芸術活動の支援・協働をさらに推進していく必要がある。</p>
経営ビジョン	<p>(1)市民が多様な文化芸術に触れ、その創造に参加できる場を提供し、創造的・主体的な文化芸術活動を支援・協働することで、市民が生き生きと心豊かに暮らし、交流する、愛着と誇りを持てる地域社会の構築に寄与する。</p> <p>(2)文化芸術が息づくまちづくりを地域ブランドとして高め、地域が活性化し一体となって、文化芸術を活かしたまちづくりに参加できるよう、文化芸術に携わる地域人材を育成するとともに、育成した人材を活用した文化芸術事業を展開する。</p>

経営改善計画

法人名	公益財団法人川崎市文化財団	所管部署	市民文化局市民文化振興室
-----	---------------	------	--------------

4カ年の目標と成果指標の体系	3年後の法人像	3か年計画の目標	事業名	事業目的	最終アウトカム	中間アウトカム	アウトプット
	文化芸術活動への参加を通じて、市民が生き生きと心豊かに暮らし、交流する地域社会の構築に寄与する。	<p>市民が多様な文化芸術に触れ、その創作等に参加できるような文化施設を適切かつ効率的に管理運営するとともに、創造的で主体的な市民の文化芸術活動について支援・協働することにより、市民が生き生きと心豊かに暮らし、交流する、愛着と誇りを持てる地域社会の構築</p> <p>「音楽のまち・かわさき」をはじめとした文化芸術を活かしたまちづくりを推進するとともに、様々な主体を対象とした文化芸術の創造・発信に関する事業や質の高い魅力的な事業を展開し、川崎の魅力育て、新しい都市イメージを創出する。</p> <p>文化芸術が息づくまちづくりを地域ブランドとして高め、豊かな文化芸術を身近に楽しみながら、市民が楽しみ、協働する中で地域が活性化し一体となって、文化芸術を活かしたまちづくりに参加できるよう、文化芸術に携わる地域人材を育成するとともに、育成した人材を活用した文化芸術事業を展開する。</p>	<p>A事業：多様な文化芸術施設（事業B、C施設を除く）の特性を活用した文化芸術事業等</p> <p>B事業：ミュゼ川崎シンフォニーホールにおける音楽事業</p> <p>C事業：川崎市アートセンターにおける舞台芸術、映画・映像等事業</p>	<p>東海道かわさき宿交流館（指定管理施設）、アートガーデンかわさき、川崎能楽堂、ラゾーナ川崎プラザソル、新百合トウェンティワンホールを活用した文化芸術活動の場を市民に提供するとともに、集結した人材や資源による、市民の自主的な文化芸術活動をコーディネートし、支援・協働する事業を展開する。</p> <p>「音楽のまち・かわさき」のシンボルであるミュゼ川崎シンフォニーホール（指定管理施設）において、優れた音響効果と高いホスピタリティを享受できる魅力ある音楽事業を展開し、国内外から人々が集まり、交流する拠点としての存在感をさらに高め、クラシック音楽を中心とする文化芸術の創造・発信を推進する。</p> <p>「アートのまちづくり」「しんゆり・芸術のまち」の拠点施設である川崎市アートセンター（指定管理施設）において、舞台芸術、映画映像芸術を創造・発信し、文化芸術に携わる地域人材等と連携しながら、市民による文化芸術活動の支援・協働を推進する。</p>	<p>東海道かわさき宿交流館の利用者数</p> <p>ラゾーナ川崎プラザソルの利用率</p> <p>主催・共催公演の入場者率</p> <p>ホール日数利用率</p> <p>映画・演劇入場者率</p> <p>演劇イベントボランティア参加者数</p>	<p>東海道かわさき宿交流館のイベント等参加者数</p> <p>ラゾーナ川崎プラザソルの利用団体数</p> <p>主催・共催公演の入場者数</p> <p>ホール利用日数</p> <p>映画・演劇入場者数</p> <p>ワークショップ等の応募人数</p>	<p>東海道かわさき宿交流館のイベント等日数</p> <p>ラゾーナ川崎プラザソルの利用可能件数</p> <p>主催・共催公演の回数</p> <p>貸館公演の回数</p> <p>映画上映・演劇公演回数</p> <p>ワークショップ等の開催回数</p>
法人の主な事業内容	<p>A事業：多様な文化芸術施設（事業B、C施設を除く）の特性を活用した文化芸術事業等</p> <p>B事業：ミュゼ川崎シンフォニーホールにおける音楽事業</p> <p>C事業：川崎市アートセンターにおける舞台芸術、映画・映像等事業</p>	<p>東海道かわさき宿交流館（指定管理施設）、アートガーデンかわさき、川崎能楽堂、ラゾーナ川崎プラザソル、新百合トウェンティワンホールを活用した文化芸術活動の場を市民に提供するとともに、集結した人材や資源による、市民の自主的な文化芸術活動をコーディネートし、支援・協働する事業を展開する。</p> <p>「音楽のまち・かわさき」のシンボルであるミュゼ川崎シンフォニーホール（指定管理施設）において、優れた音響効果と高いホスピタリティを享受できる魅力ある音楽事業を展開し、国内外から人々が集まり、交流する拠点としての存在感をさらに高め、クラシック音楽を中心とする文化芸術の創造・発信を推進する。</p> <p>「アートのまちづくり」「しんゆり・芸術のまち」の拠点施設である川崎市アートセンター（指定管理施設）において、舞台芸術、映画映像芸術を創造・発信し、文化芸術に携わる地域人材等と連携しながら、市民による文化芸術活動の支援・協働を推進する。</p>					

経営改善計画

法人名	公益財団法人川崎市文化財団	所管部署	市民文化局市民文化振興室
-----	---------------	------	--------------

4か年の経営課題 (必ず財務の視点と業務の効率化の視点を含める)	A事業:多様な文化芸術施設(事業B、C施設を除く)の特性を活用した文化芸術事業等	多様な文化芸術活動の場を市民に提供するとともに、市民の自主的な文化芸術活動を支援・協働する事業を展開するとともに、事業収入の確保及び業務運営の効率性を高める。
	B事業:ミュージア川崎シンフォニホールにおける音楽事業	「音楽のまち・かわさき」のシンボルとなる施設として、優れた音響効果と高いホスピタリティを享受できる魅力ある音楽事業を展開し、国内外から人々が集まり、交流する拠点としての存在感をさらに高めるとともに、事業収入の確保及び業務運営の効率性を高める。
	C事業:川崎市アートセンターにおける舞台芸術、映画・映像等事業	「しんゆり・芸術のまち」の拠点として、創造発信、地域連携・育成、鑑賞の舞台芸術事業と、良質な映画上映の鑑賞、人材育成、地域連携の映像事業を展開し、効果的・効率的な事業運営を進めるとともに、事業収入の確保及び業務運営の効率性を高める。
	財務改善	利用者増による事業収入の確保、国等の補助金その他自己収入の確保に努め、行政サービスコストの縮減に努める。
	業務・組織の改革	優れた文化芸術事業を企画・実践し、市民の文化芸術活動を創造・支援できる人材を確保・育成する。

項目	指標の種類	指標	指標の選定理由	目標値(単位)	目標値の設定根拠
A事業:多様な文化芸術施設(事業B、C施設を除く)の特性を活用した文化芸術事業等	アウトプット	東海道かわさき宿交流館のイベント等日数	常設展示以外の来館を促す企画の有無が集客努力の指標となる。	270日	企画展示実施日数及び集客イベント(毎月2回)実施日数の予定から設定した。
	アウトプット	ラゾーナ川崎プラザソル利用可能件数	効率的な施設運営により貸館の利用機会を多く提供することが最終的な利用増につながる。	975件	過去3年間の数値推移に基づき設定した。
	中間アウトカム	東海道かわさき宿交流館のイベント等参加者数	参加者数は、魅力的なイベント等であるか否かを示す指標である。	30,000人	企画展示来場者数及び集客イベント参加数の見込から設定した。
	中間アウトカム	ラゾーナ川崎プラザソル利用団体数	利用団体数を増えることは、最終的な利用件数の増加につながる。	145団体	過去3年間の数値推移に基づき設定した。
	最終アウトカム	東海道かわさき宿交流館の利用者数	多様な用途の施設利用者数は、地域交流等の施設の存在意義の指標となる。	40,000人	展示、イベント、休憩、貸館利用等の人数の見込から設定した。
	最終アウトカム	ラゾーナ川崎プラザソル利用率	利用率は、貸館施設としての主要な経営指標である。	80%	過去3年間の数値推移に基づき設定した。
B事業:ミュージア川崎シンフォニホールにおける音楽事業	アウトプット	主催・共催公演の回数	ホールへの来館を促す企画の有無が集客努力の指標となる。	90回	平成23・24年度はホール休館のため、平成21・22年度の数値推移に基づき設定した。
	アウトプット	貸館公演の回数	効率的な施設運営により貸館の回数を増やし、利用いただくことがホール評価の指標となる。	80回	平成23・24年度はホール休館のため、平成21・22年度の数値推移に基づき設定した。
	中間アウトカム	主催・共催公演の入場者数	入場者数は、公演内容の充実度を示す指標である。	100,000人	平成23・24年度はホール休館のため、平成21・22年度の数値推移に基づき設定した。
	中間アウトカム	ホール利用日数	ホールの利用日数が増えることは、最終的な日数利用率の増加につながる。	318日	平成23・24年度はホール休館のため、平成21・22年度の数値推移に基づき設定した。
	最終アウトカム	主催・共催公演の入場者率	主催・共催公演の入場者率は、実演芸術の鑑賞機会として文化芸術創造・発信の指標となる。	75%	平成23・24年度はホール休館のため、平成21・22年度の数値推移に基づき設定した。
	最終アウトカム	ホール日数利用率	貸館も含めたホール日数利用率は、音楽のまちかわさきのシンボル施設としての存在意義の指標となる。	98%	平成23・24年度はホール休館のため、平成21・22年度の数値推移に基づき設定した。

経営改善計画

法人名	公益財団法人川崎市文化財団	所管部署	市民文化局市民文化振興室
-----	---------------	------	--------------

	C事業:川崎市 アートセンターに おける舞台芸 術、映画・映像等 事業	アウトプット	映画上映・演劇公演回数	上映回数・公演回数は施設の稼働実態の指標となる。	1600回	24年度の実績に基づいて設定した。
		アウトプット	ワークショップ等の開催回数	ワークショップの回数は、人材育成事業の取り組み実態の指標となる。	25回	24年度の実績に基づいて設定した。
		中間アウトカム	映画・演劇入場者数	入場者数は、アートセンターの主要事業である舞台芸術・映画事業の内容の指標となる。	64,000人	24年度の実績に基づいて設定した。
		中間アウトカム	ワークショップ等の応募人数	応募人数は、ワークショップ事業内容の魅力を量る指標となる。	700人	24年度の実績に基づいて設定した。
		最終アウトカム	映画・演劇入場者率	入場者率は、上映映画の内容、演劇公演の内容や上映日程、公演日程を量る指標となる。	35%	24年度の実績に基づいて設定した。
		最終アウトカム	演劇・イベント等のボランティア参加者数	ボランティア参加者数は、イベント等の魅力や参加しやすい開催環境を量る指標となる。	300人	24年度の実績に基づいて設定した。
	財務改善	国等の資金確保	川崎市の財政支援依存度低減のため、国等の補助金を獲得できる事業手法を創出する。	2,000千円	過去3年間の数値推移に基づき設定した。	
		自己収入の確保	川崎市の財政支援依存度低減のため、事業収入及び付随的収入を含め自己収入を確保する。	330,000千円	実績値に基づき設定した。	
	業務・組織の改革	専門性の高い人材確保等	優れた事業企画を実施できる人材を確保・育成する。	実施	指定管理制度との整合性を考慮しながら専門性の高い優れた人材を確保するとともに、人材の能力を発揮・向上させる育成等を図る。	
		財団事業の多様なPR推進	事業PRにより財団管理運営施設の認知度向上と財団自体のイメージアップを図る。	実施	個別の事業PRに加えて、財団自体のイメージアップを図る多様なPR活動をさらに推進する。	

経営改善計画

法人名	公益財団法人川崎市文化財団	所管部署	市民文化局市民文化振興室
-----	---------------	------	--------------

【2:行動計画】

計画期間	平成 26 年 4 月 1 日 ~ 平成 30 年 3 月 31 日 (4 カ 年)
------	--

(1)A事業:多様な文化芸術施設(事業B、C施設を除く)の特性を活用した文化芸術事業等

目標項目	現 状	行動計画	スケジュール			
			H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
東海道かわさき宿交流館のイベント等日数	H25.10.1に開設した施設であり年度の実績値はないが、事業計画に基づき設定した。	企画展示は開期3週間程度で10回、イベント等は月2回開催を計画する。	270日	270日	270日	270日
ラゾーナ川崎プラザソル利用可能件数	過去3年度と同水準で推移している。	効率的な施設運営により貸館の利用機会を多く提供する。	975件	975件	975件	975件
東海道かわさき宿交流館のイベント等参加者数	H25.10.1に開設した施設であり年度の実績値はないが、事業計画に基づき設定した。	来館者ニーズに合致した事業企画によりリピーターを確保する。	30000人	30000人	30000人	30000人
ラゾーナ川崎プラザソル利用団体数	過去3年度と同水準で推移している。	より多くの利用団体を顧客として確保し、経営の安定を図る。	145団体	145団体	145団体	145団体
東海道かわさき宿交流館の利用者数	H25.10.1に開設した施設であり年度の実績値はないが、事業計画に基づき設定した。	魅力的な事業企画とともに、常設展示や貸館の良好な利用環境提供により利用者増を図る。	40000人	40000人	40000人	40000人
ラゾーナ川崎プラザソル利用率	過去3年度と同水準で推移している。	貸館利用率を高め、経営効率を向上させる。	80%	80%	80%	80%

(2)B事業:ミューザ川崎シンフォニーホールにおける音楽事業

目標項目	現 状	行動計画	スケジュール			
			H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
主催・共催公演の回数	H25年度は、過去2年度(H21~22年度)の平均回数と同水準で推移している。	芸術創造発信型事業のみならず、教育や人材育成事業を含めた公演を計画する。	90回	90回	90回	90回
貸館公演の回数	H25年度は、過去2年度(H21~22年度)の平均回数と同水準で推移している。	効率的な施設運営により貸館の利用機会を多く提供する。	80回	80回	80回	80回
主催・共催公演の入場者数	H25年度は、過去2年度(H21~22年度)の平均入場者数と同水準で推移している。	芸術創造発信型事業のみならず、教育や人材育成事業を含めた幅広い公演を実施し、入場者獲得を図る。	100,000人	100,000人	100,000人	100,000人
ホール利用日数	H25年度は、過去2年度(H21~22年度)の平均日数と同水準で推移している。	効率的な施設運営により、主催・共催公演や貸館の利用日数を増やし、利用者数の獲得を図る。	318日	318日	318日	318日
主催・共催公演の入場者率	H25年度は、過去2年度平均(71%)と同水準で推移している。	芸術創造発信型事業のみならず、教育や人材育成事業を含めた幅広い公演を実施し、入場者獲得を図る。	75%	75%	75%	75%
ホール日数利用率	H25年度は、過去2年度(H21~22年度)の平均利用率と同水準で推移している。	主催・共催公演、貸館及び保守点検の効率的なスケジュール調整により、日数利用率向上を図る。	98%	98%	98%	98%

経営改善計画

法人名	公益財団法人川崎市文化財団	所管部署	市民文化局市民文化振興室
-----	---------------	------	--------------

(3)C事業：川崎市アートセンターにおける舞台芸術、映画・映像等事業

目標項目	現 状	行動計画	スケジュール			
			H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
映画上映・演劇公演回数	映画上映回数は、24年度の利用日数が315日で1463回であり、91%の稼働率である。演劇は、利用日数253日で126回73%である。	演劇は、貸館利用を進め、利用日数の増と自己収入の増を図る。	1600回	1600回	1600回	1600回
ワークショップ等の開催回数	映画関係ワークショップは定例化している。演劇関係は24年度6回開催した。	ワークショップは、他主催の時期や内容を調整し、夏休み・春休みを中心に開催していく。	25回	25回	25回	25回
映画・演劇入場者数	映画は、24年度実績で48,228人で1上映あたり33人、演劇は、15,720人で1公演あたり125人である。	映画は、「見てもらいたい映画、見てみたい映画」を継続し、24年度実績を維持していく。演劇は、演目により入場者数に格差があるので、日程の調整、内容の充実、広報工夫を図り、入場者数の増につなげていく。	64000人	64000人	64000人	64000人
ワークショップ等の応募人数	24年度の実績から、演劇は400人、映画は250人である。	ワークショップは、少人数で開催するものであるから、応募者数が多いことは必ずしも肯定すべきものとは限らないが、魅力あり、実のある内容により人材育成の一端を担っていく。	700人	700人	700人	700人
映画・演劇入場者率	入場者率(=入場者数÷上映・公演回数×座席数)は、映画は30%、演劇は64%である。映画・演劇合計で34%である。	映画は、「見てもらいたい映画、見てみたい映画」を継続し、24年度実績を維持していく。演劇は、演目により入場者数に格差があるので、日程の調整、内容の充実、広報工夫を図り、入場者数の増につなげていく。	35%	35%	35%	35%
演劇・イベント等のボランティア参加者数	ボランティア参加者数は、しんゆり寄席が10人×10回=100人、アート講座が15人×12人=180人である。	演劇やイベントの魅力や参加しやすい開催環境を創出し、ボランティア参加の充実を図る。	300人	300人	300人	300人

(4)財務の改善

目標項目	現 状	行動計画	スケジュール			
			H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
国等の資金の確保	H24年度の実績1,956千円	川崎市の財政支援依存度低減のため、国等の補助金を獲得できる事業手法を創出する。	2000千円	2000千円	2000千円	2000千円
自己収入の確保	H24年度の実績326,314千円	川崎市の財政支援依存度低減のため、事業収入及び付随的収入を含め自己収入を確保する。	330000千円	330000千円	330000千円	330000千円

(5)業務・組織の改革

目標項目	現 状	行動計画	スケジュール			
			H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
専門性の高い人材確保等	1年単位の有期契約により雇用している。	指定管理制度との整合性を考慮しながら専門性の高い優れた人材を確保するとともに、人材の能力を発揮・向上させる育成等を図る。	検討	計画	検討	計画
財団事業の多様なPR推進	個別の事業PRとともに、財団自体のイメージアップを図るPR活動にも取り組んでいる。	個別の事業PRIに加えて、財団自体のイメージアップを図る多様なPR活動をさらに推進する。	検討	計画	実施	実施

資金計画表

[平成26年度～平成29年度]

法人名：公益財団法人川崎市文化財団

(単位：千円)

項目		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
経常収支	収入	1576713	1576713	1576713	1576713
	事業収入				
	営業債権増加高				
	補助金収入	400445	400445	400445	400445
	委託費収入				
	寄付金収入	7760	7760	7760	7760
	雑収入	2990	2990	2990	2990
	その他収入	41740	41740	41740	41740
	...				
	経常収入合計	2029648	2029648	2029648	2029648
支出	事業費	1994783	1994783	1994783	1994783
	管理費	42421	42421	42421	42421
	減価償却費(△)	-13700	-13700	-13700	-13700
	貸倒引当金繰入(△)				
	退職給付引当金繰入(△)				
	営業債務増加高(△)				
	法人税等支払				
	...				
	経常支出合計	2023504	2023504	2023504	2023504
	経常収支	6144	6144	6144	6144
投資収支	固定資産取得支出				
	固定資産売却収入				
	...				
投資等収支	0	0	0	0	
財務収支	借入れによる収入				
	借入金償還による支出				
	利息/配当金の支払				
財務収支	0	0	0	0	
現金預金増加高		6144	6144	6144	6144
期首現金預金		16000	22144	28288	34432
期末現金預金		22144	28288	34432	40576

法人名	公益財団法人川崎市文化財団	所管部署	市民文化局市民文化振興室
-----	---------------	------	--------------

A事業：多様な文化芸術施設(事業B、C施設を除く)の特性を活用した文化芸術事業等 東海道かわさき宿交流館(指定管理施設)、アートガーデンかわさき、川崎能楽堂、ラゾーナ川崎プラザソル、新百合トウェンティワンホールを活用した文化芸術活動の場を市民に提供するとともに、集結した人材や資源による、市民の自主的な文化芸術活動をコーディネートし、支援・協働する事業を展開する。

1. 法人による事業評価

指標の種類	指標		年度推移(Plan・Do)				目標の達成状況(評価)	法人コメント(Check・Action)
			26	27	28	29		
アウトプット	東海道かわさき宿交流館のイベント等日数	目標	270	270	270	270	A	<p><達成状況> 昔のなつかしい写真展、築地魚河岸の写真展、澤井寿美人形展などの各種企画展及び江戸時代の町人文化等に触れる公演、街道の歴史文化に関する講演会、前座・二つ目の落語会の定期的開催、各種体験教室、共催イベント、川崎区と連携した川崎宿スタンプラリー関連イベント等を開催した。</p> <p><改善策> 定期的開催イベントとして、H28年度は前座・二つ目の無料落語会を4回開催し、毎回、施設定員いっぱいのお客がある。今後も、来館者の趣向にマッチした企画展や講演会、各種集客イベント等を定期的に開催していく</p>
		実績 (日) (増減率)	273 0%	273 0%	277 1%			
アウトプット	ラゾーナ川崎プラザソル利用可能件数	目標	975	975	975	975	A	<p><達成状況> 目標を0.29%上回った。</p> <p><改善策> 施設利用予約状況に併せて施設点検日や音響等の調整日を設定するなど、利用可能件数の増大に努める。</p>
		実績 (件) (増減率)	966 1%	972 1%	1,003 3%			
中間アウトカム	東海道かわさき宿交流館のイベント等参加者数	目標	30,000	30,000	30,000	30,000	S	<p><達成状況> 地域の歴史・文化を伝える展示、多様な文化を伝える各種企画展、講演会、集客イベント等の開催により安定的に多数の参加者を得ることができた。</p> <p><改善策> 企画展観覧者数は、展示期間中の来館者数と同じとしている。それ以外のイベントの参加者数は、H28年度2,180人で前年度比+1,052人である。今後も来館者の反応、意向を踏まえ、当館の設立趣旨に沿ったテーマで企画展やイベント等を開催していく。</p>
		実績 (人) (増減率)	39,806 -3%	38,774 -3%	34,712 -10%			
中間アウトカム	ラゾーナ川崎プラザソル利用団体数	目標	145	145	145	145	B	<p><達成状況> 達成率は95.9%、前年度に比べ3%の減となっている。</p> <p><改善策> 一層のPRに努めるとともに、閑散期については利用料の割引等について他都市施設の対応を研究・検討する。</p>
		実績 (団体) (増減率)	131 9%	143 9%	139 -3%			
最終アウトカム	東海道かわさき宿交流館の利用者数	目標	40,000	40,000	40,000	40,000	S	<p><達成状況> 開館後、3年を経たが、目標数値を2割上回る来館者を維持できた。</p> <p><改善策> まち歩きグループの団体による来館状況によって利用者数が上下する傾向にあるため、地域の内外の方々を快適に集い交流できる場としての利用、及び集会所等の利用を促進させ、利用者数の増加を図る。</p>
		実績 (人) (増減率)	49,260 3%	50,857 3%	47,120 -7%			
最終アウトカム	ラゾーナ川崎プラザソル利用率	目標	80	80	80	80	S	<p><達成状況> 目標数値を10%上回った。</p> <p><改善策> 今後とも様々な利用促進策を実施する。</p>
		実績 (%) (増減率)	86 -8%	79 -8%	90 14%			
負担	事業別の行政サービスコスト(直接事業コスト-直接自己収入)(千円)	目標	350,227	350,227	350,227	350,227	S	<p><達成状況> 前年度より、目標数値を大幅に下回っており、コスト計算及び自主財源確保の意識が高まっている。</p> <p><改善策> 行政サービスの一翼を担うという観点から、今後とも効率的で効果的な事業執行に努める。</p>
		実績 (千円) (増減率)	334,353 1%	336,889 1%	292,446 -13%			

* 評価の説明... S:実績数値が目標数値の110%以上の達成 A:実績数値が目標数値の100%以上110%未満の達成 B:実績数値が目標数値の90%以上100%未満の達成 C:実績数値が目標数値の90%未満の達成

2. 所管による事業評価

28年度	所管コメント(Check・Action)		
	評価結果に対する所管としての認識	今後法人に期待すること、対策の強化を望む部分など	
目標の達成状況	A	かわさき宿交流館の企画展は、仕様書で定めた年4回を大きく上回る7回を開催するとともに、築地の企画展など時機を得た企画を実施するなど創意工夫が認められる。プラザソルについては、開館10周年の節目にあたり、目標を大幅に上回る利用率を確保したことは非常に評価できる。	所管施設のほかに市内で複数の指定管理施設を管理運営している強みを活かし、施設相互の連携や各施設の利用率向上に繋がる効果的な取組を望む。東海道かわさき宿交流館については、強みを生かした魅力あるイベント実施を期待する。
費用対効果の状況	S	かわさき宿交流館の来館者数については、開館以降目標を大きく上回る来館者で推移しており、費用対効果は高く効果的である。プラザソルについては、高い利用率とともに過去最高クラスの収入を確保したことは特筆すべき点である。全体として、市民ニーズや地域性の把握と魅力ある公演の実施など、効果的な事業実施や施設利用に向けて積極的に取り組んでいる。	他施設などで培ったノウハウを活かし収益事業の強化や施設利用団体数・来館者数の更なる増加につながる効果的な取組を期待する。プラザソルについては、利用単価の検討など更なる利用率の向上と収益増に向けた取組を期待する。

* 評価の説明 目標の達成状況(法人による評価を平均して判断) ... S:目標を大きく上回っている A:目標を達成している B:目標を下回っている C:目標を大きく下回っている
費用対効果の状況(費用と効果の増減率により判断) ... S:費用対効果が著しく向上している A:費用対効果が向上している B:費用対効果が低下している C:費用対効果が著しく低下している

法人名	公益財団法人川崎市文化財団	所管部署	市民文化局市民文化振興室
-----	---------------	------	--------------

B事業：ミュージアム川崎シンフォニーホールにおける音楽事業 「音楽のまち・かわさき」のシンボルであるミュージアム川崎シンフォニーホール(指定管理施設)において、優れた音響効果と高いホスピタリティを享受できる魅力ある音楽事業を展開し、国内外から人々が集まり、交流する拠点としての存在感をさらに高め、クラシック音楽を中心とする文化芸術の創造・発信を推進する。

1. 法人による事業評価

指標の種類	指標		年度推移(Plan・Do)				目標の達成状況(評価)	法人コメント(Check・Action)
			26	27	28	29		
アウトプット	主催・共催公演の回数 (回)	目標	90	90	90	90	S	<p><達成状況> 従来からの事業展開をさらに充実させつつ、新規事業にも意欲的に取り組むなど、オーケストラ公演やパイオルガン公演、ジャズ公演等、多彩で魅力的な幅広いジャンルの公演を実施し、目標を大きく上回る結果となった。</p> <p><改善策> 今後も引き続き、幅広い世代の多くのお客様に会場いただけるよう、多彩で魅力あるプログラムや人材育成・普及啓発プログラム等を実施し、「音楽のまち・かわさき」のシンボルとして、すそ野の拡大を図っていく。</p>
		実績 (増減率)	106 3%	109 3%	104 -5%			
アウトプット	貸館公演の回数 (回)	目標	80	80	80	80	S	<p><達成状況> ホールの優れた音響や安全性について評価いただき、アマチュアオーケストラ以外にも、多くのプロの演奏家に御利用いただいた他、要望の多い土・日曜日のスケジュールを調整し、1日に2公演を開催するなど、目標を大幅に上回る貸館公演を誘致することができた。</p> <p><改善策> 今後も保守点検や公演等のスケジュール調整を行うことにより利用可能日数を確保し、シンフォニーホールの優れた音響や安全性、ホスピタリティ等のアピールを継続しながら、貸館誘致を進めていく。</p>
		実績 (増減率)	96 -2%	94 -2%	111 18%			
中間アウトカム	主催・共催公演の入場者数 (人)	目標	100,000	100,000	100,000	100,000	B	<p><達成状況> H28年度は、共催公演の公演回数減少や、左記入場者数に含まれないホール以外の施設(音楽工房等)で開催した人材育成・普及啓発事業等に来場者が分散した結果、目標にわずかに届かない結果となった。</p> <p><改善策> 今後も引き続きお客様のニーズを基にプログラムのラインアップを検討し、また、広報営業等にシフトし、シンフォニーホールの魅力や事業・活動等のPRを強化することにより、来場者の増加を図っていく。</p>
		実績 (増減率)	90,920 9%	99,258 9%	97,220 -2%			
中間アウトカム	ホール利用日数 (日)	目標	318	318	318	318	A	<p><達成状況> 東京交響楽団との公演、パイオルガン公演等を含む主催・共催のみならず、貸館公演誘致や施設メンテナンス等を含むスケジュール調整を効率的に実施した結果、目標を達成することができた。</p> <p><改善策> 今後もこれまでの施設管理のノウハウを活かし、合同保守点検を積極的に実施するなど効率的な保守を行い、利用可能日数の確保に向けた取り組みを実施していく。また、貸館利用団体へシンフォニーホールの優れた音響や安全性をアピールするとともに、ミュージアの魅力をより発揮することのできる施設利用促進を努めていく。</p>
		実績 (増減率)	345 -7%	322 -7%	341 6%			
最終アウトカム	主催・共催公演の入場者率 (%)	目標	75	75	75	75	B	<p><達成状況> H28年度は貸館公演の回数が増えたことにより、来場者が分散され、目標にわずかに届かない結果となった。</p> <p><改善策> 今後も引き続きお客様のニーズを基にプログラムのラインアップを検討し、また、広報営業等にシフトし、シンフォニーホールの魅力や事業・活動等のPRを強化することにより、来場者の増加を図っていく。</p>
		実績 (増減率)	72 0%	72 0%	73 1%			
最終アウトカム	ホール日数利用率 (%)	目標	98	98	98	98	A	<p><達成状況> 東京交響楽団との公演、パイオルガン公演等を含む主催・共催のみならず、貸館公演誘致や施設メンテナンス等を含むスケジュール調整を効率的に実施した結果、目標を達成することができた。</p> <p><改善策> 今後もこれまでの施設管理のノウハウを活かし、合同保守点検を積極的に実施するなど効率的な保守を行い、利用可能日数の確保に向けた取り組みを実施していく。また、貸館利用団体へシンフォニーホールの優れた音響や安全性をアピールするとともに、ミュージアの魅力をより発揮することのできる施設利用促進を努めていく。</p>
		実績 (増減率)	99 0%	99 0%	99 0%			
負担	事業別の行政サービスコスト (直接事業コスト-直接自己収入) (千円)	目標	835,585	744,305	747,851	747,595	A	<p><達成状況> チケット収入及び施設利用料の増加、国庫補助金やホールホーンサー収入など外部資金調達の増加により目標を達成した。また、社会全体の電気料金の値引に影響を受け、支出金額が減少したことにより行政サービスコストを削減することができた。</p> <p><改善策> 今後も、音楽芸術を発信するための魅力ある公演事業の企画・実施及びチケット販売促進を行うとともに、外部資金の充実を図り、貸館公演の誘致を強化するなど、様々な広報活動を通じ、直接自己収入を確保していく。</p>
		実績 (増減率)	785,483 -9%	716,419 -9%	693,729 -12%			

* 評価の説明・・・ S:実績数値が目標数値の110%以上の達成 A:実績数値が目標数値の100%以上110%未満の達成 B:実績数値が目標数値の90%以上100%未満の達成 C:実績数値が目標数値の90%未満の達成

2. 所管による事業評価

28年度	所管コメント(Check・Action)	
	評価結果に対する所管としての認識	今後法人に期待すること、対策の強化を望む部分など
目標の達成状況	S	<p>ホールの高い音響性能の周知や多彩なジャンルの公演を行い、高めの目標を達成していることは評価できる。入場者数・率については目標にわずかに届かぬものの、主催・共催の入場者率は増加傾向にあり目標達成の目処も立っていると考える。本市が進める「パラムープメント」の動きとも連動し、施設のバリアフリー化だけでなく、職員へのセミナーや講習等ソフト面でも積極的な取組が伺える。さらに、平成28年度地域創造大賞(総務大臣賞)を受賞したことはこれまでの多岐にわたる取組が評価された結果と判断できる。</p> <p>今後も「音楽のまち・かわさき」のシンボル施設であると同時に、市民の「晴れの舞台」として、質の高いサービスの提供とともに、安全・安心で親しみの持てるホールとしての運営を引き続き期待する。主催公演の充実と同時に、貸館公演の誘致も引き続き積極的に取り組むことを期待する。2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、国際的に高い評価を得ている川崎シンフォニーホールが果たす役割と期待は大きいことから、本市の文化プログラム展開と連動した取組を期待する。</p>
費用対効果の状況	S	<p>海外オーケストラ事業やシンボル事業「フェスタサマーミュージアム川崎」など費用を要する事業はあるものの、文化庁の「劇場・音楽堂等活性化事業」特別支援事業など外部資金を積極的に導入するなど、財政面においても努力を行っている。広報や管理部門などスタッフ内での情報提供も密に行い、事業の効率的な実施と経費削減に努め、業務基準を満たしたうえで支出を削減している。</p> <p>今後もより効果的な公演告知や利用者からの声の収集を実施し、更なるサービス向上に努めることや、引き続き効果的な公演スケジュールを構築することを期待する。「フェスタサマーミュージアム川崎」などのシンボル事業等については、その内容、費用集客等の課題を踏まえた運営を行うことを期待する。</p>

* 評価の説明 目標の達成状況(法人による評価を平均して判断) ... S:目標を大きく上回っている A:目標を達成している B:目標を下回っている C:目標を大きく下回っている
費用対効果の状況(費用と効果の増減率により判断) ... S:費用対効果が著しく向上している A:費用対効果が向上している B:費用対効果が低下している C:費用対効果が著しく低下している

法人名	公益財団法人川崎市文化財団	所管部署	市民文化局市民文化振興室
-----	---------------	------	--------------

C事業:川崎市アートセンターにおける舞台芸術、映画・映像等事業 「アートのみちづくり」「しんゆり・芸術のみち」の拠点施設である川崎市アートセンター(指定管理施設)において、舞台芸術、映画映像芸術を創造・発信し、文化芸術に携わる地域人材等と連携しながら、市民による文化芸術活動の支援・協働を推進する。

1. 法人による事業評価

指標の種類	指標		年度推移(Plan・Do)				目標の達成状況(評価)	法人コメント(Check・Action)
			26	27	28	29		
アウトプット	映画上映・演劇公演回数 (回)	目標	1,600	1,600	1,600	1,600	A	<p><達成状況> 映画上映は1,504回、演劇公演は196回の計1,700回となった。昨年度と比較し映画上映回数は31回の増、劇場公演回数は、貸館件数の増により57回の増となった。</p> <p><改善策> 映画上映では、今後も新作・名作などを中心に内容を重視した上映事業を実施するとともに、上映支援や団体鑑賞等の貸館事業の拡大を図って行く。劇場公演では主催事業等の定期的開催を基本に貸館数の更なる増加を目指し、利用者サービスや団体支援等の充実を図り施設の更なる有効利用を行っていく。</p>
		実績 (増減率)	1,595 -1%	1,612 1%	1,700 5%			
アウトプット	ワークショップ等の開催回数 (回)	目標	25	25	25	25	S	<p><達成状況> 映画はシネマワークショップ、アニメーションワークショップ、映画タイムマシン等計24回開催した。劇場は、ミュージカルワークショップ6回と新たに取組んだ「ことばのワークショップ」2回で計8回開催した。いずれも多数の応募者があり好評であった。</p> <p><改善策> 参加者の意見集約を図り、テーマ、対象、内容等について改善し、今後とも魅力あるワークショップの開催に努めていく。</p>
		実績 (増減率)	33 32%	27 -18%	32 19%			
中間アウトカム	映画・演劇入場者数 (人)	目標	64,000	64,000	64,000	64,000	S	<p><達成状況> 映画は64,851人で、話題作に恵まれたこともあり、昨年度より4,668人の増となった。また、劇場は22,539人で、共催公演、貸館公演の増により昨年度より4,284人の増となった。</p> <p><改善策> 映画は引き続き、時機に応じて企画特集とのバランスを取りながら、「見たくなる映画」、「見てよかった映画」、「人に見せたい映画」の選定により、1上映あたりの入場者の拡大を図り、入場者数の目標達成に努める。劇場は創造発信・交流と参加型事業を中心に置きながら、鑑賞型事業の充実を図るとともに、広報宣伝に努め、入場者数の増に結びつけていく。</p>
		実績 (増減率)	82,340 28%	78,438 -5%	87,390 11%			
中間アウトカム	ワークショップ等の応募人数 (人)	目標	700	700	700	700	S	<p><達成状況> 映像館のワークショップは、定員合計229人のところ応募者が609人であった。劇場のワークショップは、定員90人のところ206人の応募があった。映像館のワークショップでは、27年度から新たに開催した「キヌローワークショップ」(アニメーションの原型であるソートロブ体験とピンホール写真の原理を学び作品を制作する)に対して321名の応募があり、目標達成に大きく貢献した。</p> <p><改善策> ワークショップの内容によっては応募が少ないものもあるため、チラシやホームページでの広報活動の充実を図り、全てのWSに興味を示められるよう努める。応募が多いものは講師や会場確保等の調整を図り事業の拡大を検討していく。</p>
		実績 (増減率)	433 62%	843 120%	852 122%	1%		
最終アウトカム	映画・演劇入場者率 (%)	目標	35	35	35	35	S	<p><達成状況> 映画上映は37.8%、劇場は61.2%、平均して49.5%の入場者率であった。映画上映では話題作に恵まれたこともあり1.8%の増となったが、劇場は貸館公演が増えたものの昨年度よりも3.8%の減となった。</p> <p><改善策> 映画では今後も新作・名作などを中心に内容を重視した上映事業を実施し入場者率を高め、劇場公演では質の高い主催公演と併せて、貸館利用者への利用者サービスや団体支援等の充実を図り入場者率を高めていく。</p>
		実績 (増減率)	52.0 48%	51 -2%	49.5 -3%			
最終アウトカム	演劇・イベント等のボランティア参加者数 (人)	目標	300	300	300	300	A	<p><達成状況> しんゆり寄席(10回開催)の運営に延べ100人、アート講座(全11回)の運営に延べ200人のアートボランティアが積極的に関わり、事業運営の強力な推進母体となった。</p> <p><改善策> アートボランティア全体の質の向上を図るためボランティア研修会を開催し、事業や劇場運営に向けた更なる質の向上を目指していく。また、ボランティア相互の連携や交流図るため、日常的な活動も積極的に進めていく。</p>
		実績 (増減率)	300 100%	300 100%	300 100%	0%		
負担	事業別の行政サービスコスト (直接事業コスト-直接自己収入) (千円)	目標	149,000	149,000	149,000	149,000	A	<p><達成状況> 第2期指定期間の5年目として、事業の効率的な実施と自己収入の拡大に努め、目標を達成することができた。</p> <p><改善策> H29年度は、第3期指定管理の1年目にあたり、引き続き映画・映像等事業、舞台芸術事業の充実と貸館事業の積極的な取組に努め、主催・共催・提携事業のバランスを勘案し、自己収入の確保に努めていく。</p>
		実績 (増減率)	146,421 -1.7%	137,689 -6%	142,341 3%			

* 評価の説明・・・ S:実績数値が目標数値の110%以上の達成 A:実績数値が目標数値の100%以上110%未満の達成 B:実績数値が目標数値の90%以上100%未満の達成 C:実績数値が目標数値の90%未満の達成

2. 所管による事業評価

総合評価	28年度	所管コメント(Check・Action)	
		評価結果に対する所管としての認識	今後法人に期待すること、対策の強化を望む部分など
S	目標の達成状況	アウトプット指標の数値も向上し、多彩で良質な舞台・映像プログラムが創造・発信された。結果として目標を超える入場者率を達成しているとともに、多数のボランティアスタッフが活用されたことは、市民との協働による文化芸術活動が推進されたと認識している。	全体的な館運営の質は向上しているが、特に映画上映やワークショップ等においては、個々の上映及び企画に対する入場者・参加者実績にばらつきがあるため、今後とも指定管理者グループの強みを最大限に活かすとともに、地域とのネットワーク等を図りながら更なる効果的な事業の推進を望む。
	費用対効果の状況	上映映画の選定や公演の企画など専門的な見識を持ったスタッフにより効果的な支出がなされた。昨年度比でのコスト増は映画の興行収入に正比例する上映料の増が要因であることから、実績の高さゆえの支出増であり適正なものとして認識している。入場者率も目標を超えていることから、費用に対して多くの効果を生んでいると認識している。	費用対効果の観点から、劇場・映像館の入場者率をさらに促進していくためには、認知度の向上につながる取組に努めるとともに、これまでの運営手法を検証し、効果的・効率的な事業展開を図る必要がある。

* 評価の説明 目標の達成状況(法人による評価を平均して判断)・・・ S:目標を大きく上回っている A:目標を達成している B:目標を下回っている C:目標を大きく下回っている
費用対効果の状況(費用と効果の増減率により判断)・・・ S:費用対効果が著しく向上している A:費用対効果が向上している B:費用対効果が低下している C:費用対効果が著しく低下している

法人名	公益財団法人川崎市文化財団	所管部署	市民文化局市民文化振興室
-----	---------------	------	--------------

財務の改善及び業務・組織の改革

1. 財務の改善

目標項目	行動計画(Plan)		達成状況(Do)				法人コメント(Check・Action)	所管コメント(Check・Action)
			26年度	27年度	28年度	29年度		
国等の資金確保 (千円)	川崎市の財政支援依存度低減の為、国等の資金を獲得できる事業手法を開拓する。	目標	2,000	2,000	2,000	2,000	<p><目標の達成状況についての説明(事実)> 文化庁補助金、芸術文化振興基金及び地域創造助成金を得ることができた。</p> <p><今後の取り組みの方向性(判断)> 今後とも文化庁を始めとした芸術文化事業に関する補助制度を活用し、川崎市からの財政支援依存度の低減を図る。</p>	<p><法人コメントに対する評価(判断)> 採択基準に適合する事業実施手法をとり複数の補助・助成金等を獲得しており、目標を大幅に上回る取組が行っていることは高く評価できる。</p> <p><今後法人に期待すること(判断)> 引き続き、事業に対する国等からの財政的な助成を受けられるよう、各種の情報収集を積極的に行い、市及び関係団体と調整し、事業実施に向けた効果的な財源確保に努めることを期待する。</p>
		実績(取組状況)	68,714	80,843	66,655			
		差異	66,714	78,843	64,655	-2,000		
自己収入の確保 (千円)	川崎市の財政支援依存度低減の為、事業収入及び付随的収入を含め自己収入を確保する。	目標	330,000	330,000	330,000	330,000	<p><目標の達成状況についての説明(事実)> 事業収入のうち自己収入である入場料収入において、平成26年度と同程度の収入が確保できた。</p> <p><今後の取り組みの方向性(判断)> 顧客ニーズに応じた公演等を効果的かつ効果的に実施し、入場者数の増加による自己収入の確保を図る。</p>	<p><法人コメントに対する評価(判断)> 目標を大幅に上回る自己収入を確保したことは高く評価できる。</p> <p><今後法人に期待すること(判断)> 顧客ニーズに応じた公演等を効果的かつ効果的に実施し、入場者数の増加による自己収入の拡充に向けた取組を引き続き実施することを期待する。</p>
		実績(取組状況)	365,143	331,478	365,692			
		差異	35,143	1,478	35,692	-330,000		
()		目標					<p><目標の達成状況についての説明(事実)></p> <p><今後の取り組みの方向性(判断)></p>	<p><法人コメントに対する評価(判断)></p> <p><今後法人に期待すること(判断)></p>
		実績(取組状況)						
		差異	0	0	0	0		

2. 業務・組織の改革

目標項目	行動計画(Plan)		達成状況(Do)				法人コメント(Check・Action)	所管コメント(Check・Action)
			26年度	27年度	28年度	29年度		
専門性の高い人材確保等 ()	指定管理者制度との整合性を考慮しながら、専門性の高い優れた人材を確保するとともに、人材の能力を發揮・向上させる育成等を図る。	スケジュール	検討	計画	調査	計画	<p><取組状況についての説明(事実)> 1年単位の有期雇用契約のもとで、指定管理者制度を導入している施設等各施設の特性を合わせた人材のあり方について検討を行った。</p> <p><今後の取り組みの方向性(判断)> 今後とも優れた人材確保の方法や人材育成の方策を検討し専門性の高い人材を確保したいが、1年の有期雇用、原則、最大5年までの継続雇用という現在の制約の中では、優れた人材の確保は困難であり、改正労働契約法の趣旨に即した雇用制度のあり方を検討する。</p>	<p><法人コメントに対する評価(判断)> 優れた事業企画を実現できる専門性の高い人材の確保は、各公演の入場者目標の達成等に必要不可欠で経営改善にも資する取組であり、雇用形態の見直しや他、職員研修等による人材育成の充実が望まれる。</p> <p><今後法人に期待すること(判断)> 専門知識・経験等を有する有能な人材を確保するため、雇用形態の見直しや適切な勤務条件等を検討し、見直していく必要がある。</p>
		取組状況	検討	検討	検討			
財団事業の多様なPR推進 ()	個別の事業PRIに加えて、財団自体のイメージアップを図る多様なPR活動をさらに推進する。	スケジュール	検討	計画	実施	実施	<p><取組状況についての説明(事実)> 財団ホームページのリニューアル及びイベントごとの随時更新を行ったほかイベントや公演ごとにチケットの売れ行きに合わせた効果的な時期に新聞等にスポーツ広告を掲載し、収益の向上を図った。また、毎月発行している情報誌のリニューアル及び発行部数の増大を行った。</p> <p><今後の取り組みの方向性(判断)> 新たな媒体の活用も含め、財団のイメージアップにつながるPR活動を行っていく。</p>	<p><法人コメントに対する評価(判断)> 情報誌の大幅なリニューアルについては、内容の充実とともに見やすさも改善されており、高く評価できる。</p> <p><今後法人に期待すること(判断)> 有料の広報媒体だけでなく、SNSなど新たな広報媒体の効果的な活用も積極的に取り組まれない。</p>
		取組状況	検討	検討、一部実施	実施			
()		スケジュール					<p><取組状況についての説明(事実)></p> <p><今後の取り組みの方向性(判断)></p>	<p><法人コメントに対する評価(判断)></p> <p><今後法人に期待すること(判断)></p>
		取組状況						

法人名	公益財団法人川崎市文化財団	所管部署	市民文化局市民文化振興室
-----	---------------	------	--------------

法人の経営状況

1. 法人の基本情報(Do)

(1) 財務に関する情報

項目		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
貸借対照表 (千円)	資産					
	流動資産(A)	277,169	360,503	281,162	329,502	
	固定資産(B)	301,072	278,087	282,502	310,624	
	資産合計(C)	578,241	638,590	563,664	640,126	
	負債					
流動負債(D)	243,796	322,915	199,562	219,039		
固定負債	0	0	0	0		
正味財産(純資産)(E)	334,444	315,675	364,101	421,087		
負債・正味財産(純資産)合計	578,241	638,590	563,664	640,126		
正味財産 増減計算書 (損益計算書) (千円)	収益					
	事業収益(売上)	1,596,142	1,557,116	1,500,034	1,557,364	
	市からの補助金・委託費	349,189	344,589	354,525	297,358	
	その他	132,557	122,475	131,613	108,175	
	収益合計(F)	2,071,687	2,024,180	1,986,172	1,962,897	
	費用					
	事業費	1,984,737	1,999,990	1,897,049	1,866,770	
管理費	42,051	42,895	40,170	38,642		
その他	0	0	456	0		
費用合計	2,026,789	2,042,885	1,937,675	1,905,412		
一般正味財産増減額(当期利益)(G)	44,828	△ 18,705	48,496	57,485		

(2) 市からの収入に関する情報

項目	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
補助金・負担金(千円)	342,988	344,588	354,525	297,358	
委託費(千円)	6,201	1	0		
指定管理料(千円)	907,536	935,145	915,107	916,416	
その他(千円)	21,644	10,605	10,431	10,812	
市からの収入合計(H)	1,278,369	1,290,339	1,280,063	1,224,586	0

(3) 行政サービスコスト(市民の負担)に関する情報

項目	A事業	B事業	C事業	D事業	法人計
直接事業コスト(機会費用含む)	407,574	1,210,469	248,727		1,866,770
△直接自己収入	115,128	516,740	106,386		738,254
事業別の行政サービスコスト	292,446	693,729	142,341	0	1,128,516
間接事業コスト(機会費用含む)					38,642
△間接自己収入					0
法人全体の行政サービスコスト					1,167,158

3. 法人の経営状況の評価(Check)と改善に向けた取り組み(Action)

項目	法人コメント		所管コメント	
	分析結果に対する説明(事実)	今後の取り組みの方向性(判断)	法人コメントに対する評価(判断)	今後法人に期待すること(判断)
ストックの状況 (主に安全性の推移について)	流動比率及び正味財産比率が平成25年度以来、最高となり、また、固定比率も継続的に低下している。	各指標の数値に関わらず、引き続き効率的で安定的な経営に努める。	3つの指標とも大幅に改善しており望ましい傾向にあるが、流動比率については目標の200%との乖離が依然として大きい。	安全性を引き続き確保しつつ、効率的な経営を期待する。
フローの状況 (主に収益性の推移について)	一般正味財産増減額が過去4年間で最高となった。	ミュージア音楽事業を始めとして各事業の収益の安定化を図る。	前年度に引き続き、一般正味財産増減額(当期利益)が改善しており、望ましい傾向にある。	魅力ある公演の企画や効果的な広報の実施により、集客力向上と収益性向上の双方を期待する。
市への収入依存度の推移	過去3年間、同程度で推移している。	各事業の収益性を高めながらも公益認定基準に則した適正な水準を維持していく。	市への収入依存度が、震災前を下回る数値で推移していることは望ましい傾向である。	引き続き自己収入の増加に努めるとともに、事業コストの削減を図り、市への収入依存度の抑制を期待する。
行政サービスコスト(市民の負担)の推移	前年に比較して行政サービスコストは低下し、平成25年度以来最低の水準になった。	顧客ニーズに応じて事業を効率的かつ効果的に実施し、行政サービスコストの低減を図る。	行政サービスコスト抑制にあたっては、引き続き事業コスト削減と自己収入増加の両面からのアプローチが必要である。	各事業及び法人全体の行政サービスコストの推移について分析を行い、市民ニーズに応じた的確な事業展開を期待する。

2. 法人の評価に関する情報(分析)

(1) 財務に関する指標

① 安全性に関する指標

項目	判断基準	算出方法	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
流動比率	200%以上が望ましい	(A) ÷ (D) × 100%	114%	112%	141%	150%	#DIV/0!
固定比率	低いほど望ましい	(B) ÷ (E) × 100%	90%	88%	78%	74%	#DIV/0!
正味財産比率(自己資本比率)	高いほど望ましい	(E) ÷ (C) × 100%	58%	49%	65%	66%	#DIV/0!

② 収益性に関する指標

項目	判断基準	算出方法	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
一般正味財産増減額(当期利益)	マイナスとなっていない		44,828	-18,705	48,496	57,485	0
上記が当期収益合計に占める割合	高いほど望ましい	(G) ÷ (F) × 100%	2%	-1%	2%	3%	#DIV/0!

(2) 市への収入依存度

項目	判断基準	算出方法	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
市への収入依存度	低いほど望ましい	(H) ÷ (F) × 100%	62%	64%	64%	62%	#DIV/0!

(3) 法人全体の行政サービスコスト・間接事業コスト等に関する情報

項目		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
法人全体の行政サービスコスト		1,276,625	1,309,152	1,232,402	1,167,158	
間接事業コスト		41,983	42,895	40,170	38,642	
人員の状況	常勤従業員	33 (1)	36 (0)	35 (0)	36 (0)	()
	非常勤職員	4 (0)	6 (0)	6 (0)	6 (0)	()

